

觀音寺市人權・同和問題意識調查

(2022年6月)

分析報告書

觀音寺市

目 次

I	観音寺市人権・同和問題意識調査の概要	1
II	回答者の属性	2
III	各項目の調査結果と分析	
問 1	基本的人権の認識	4
問 2	人権課題への関心	5
問 3	自らの人権侵害の経験	6
問 4	インターネット上の人権侵害の認知	9
問 5	居住する外国人への人権侵害の認知	10
問 6	ヘイトスピーチの認知	11
問 7	同和問題、部落差別の認知	12
問 8	同和問題に関する情報を得る方法	14
問 9	同和地区の出身との交際	14
問 10	同和地区出身者との結婚に対する態度	15
問 11	同和地区出身者との結婚に対する態度(子や孫)	16
問 12	結婚や就職などでの身元調査への態度	16
問 13	同和問題に対する考え	17
問 14	同和問題の解決に対する考え	18
問 15	事前登録型本人通知制度の認知	20
問 16	性的少数者(LGBTなど)の認知	20
問 17	性的少数者(LGBTなど)からの告白に対する態度(家族から)	22
問 18	人権にかかわる宣言、法律、条例の認知	22
問 19	人権啓発に関する番組の視聴	22
問 20	人権に関する学習機会への参加	23
問 21	人権・同和問題に関する市への意見や要望(自由記載)	23

I 観音寺市人権・同和問題意識調査の概要

1 調査目的

本市における人権・同和問題の解決に向けた啓発活動の基礎資料とする

2 調査対象と時期

本市在住で18歳以上の市民を対象に2022年6月に実施

3 調査方法と結果

対象者1968人に郵送にて実施、回収726 有効回答率36.9%

4 調査項目

問 1 基本的人権の認識

問 2 人権課題への関心

問 3 自らの人権侵害の経験(補問3)

問 4 インターネット上の人権侵害の認知(補問2)

問 5 居住する外国人への人権侵害の認知

問 6 ヘイトスピーチの認知(補問2)

問 7 同和問題、部落差別の認知(補問4)

問 8 同和問題に関する情報を得る方法

問 9 同和地区の出身との交際(補問2)

問10 同和地区出身者との結婚に対する態度

問11 同和地区出身者との結婚に対する態度(子や孫)

問12 結婚や就職などでの身元調査への態度

問13 同和問題に対する考え

問14 同和問題の解決に対する考え

問15 事前登録型本人通知制度の認知

問16 性的少数者(LGBTなど)の認知(補問2)

問17 性的少数者(LGBTなど)からの告白に対する態度(家族から)

問18 人権にかかわる宣言、法律、条例の認知

問19 人権啓発に関する番組の視聴

問20 人権に関する学習機会への参加

問21 人権・同和問題に関する市への意見や要望(自由記載)

◇集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。

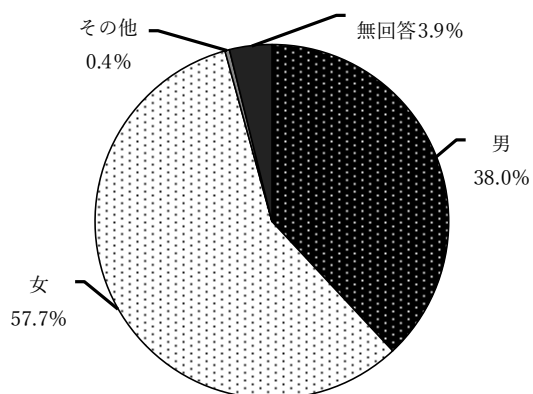
◇2つ以上の回答を可能とした質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。

Ⅱ 回答者の属性

①性別

回答者の自認する性別構成比は、「男」が38.0%、「女」が57.7%と、女性の割合が高い。

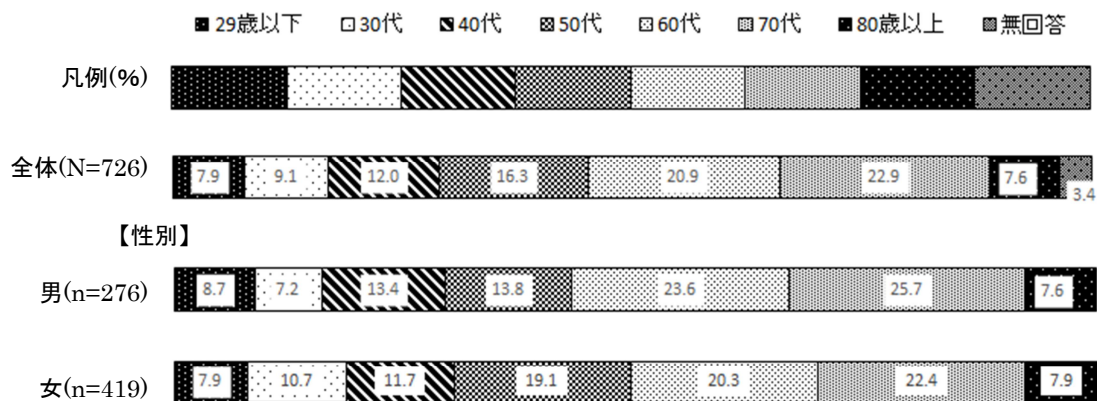
1	男	276人	3	その他	3人
2	女	419人	4	無回答	28人



②年代別

年代別構成は、「70代」の割合が最も多く22.9%。次いで「60代」20.9%、「50代」16.3%の順となっている。

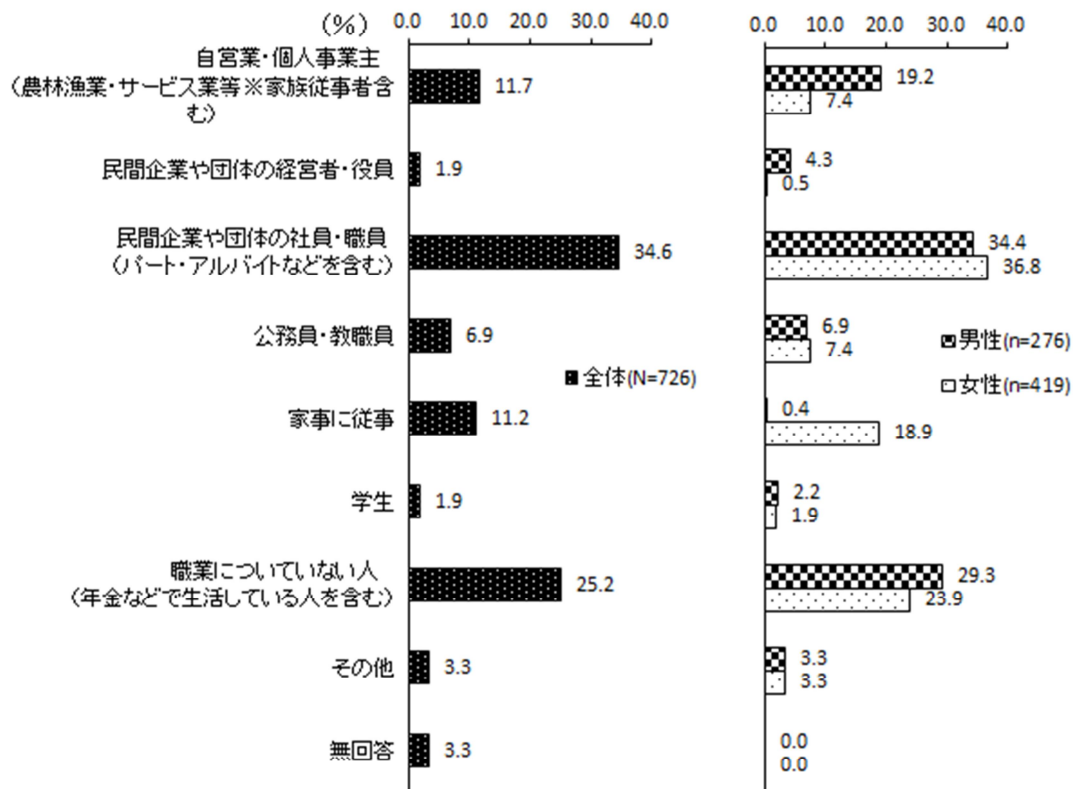
1	29歳以下	57人	5	60代	152人
2	30代	66人	6	70代	166人
3	40代	87人	7	80歳以上	55人
4	50代	118人	8	無回答	25人



③職業別

職業については、「民間企業や団体の社員・職員（パート・アルバイトなどを含む）」の割合が最も高く 34.6%。次いで「職業についていない人（年金などで生活している人を含む）」25.2%、「自営業・個人事業主（農林漁業・サービス業等、家族従事者含む）」11.7%、「家事に従事」11.2%の順となっている。

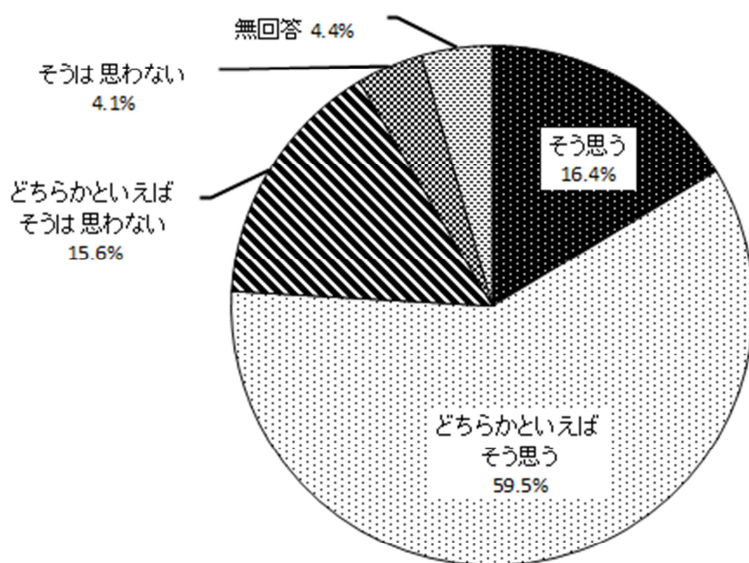
1 自営業・個人事業主（農林漁業・サービス業等、家族従事者含む）	85 人
2 民間企業や団体の経営者・役員	14 人
3 民間企業や団体の社員・職員（パート・アルバイトなどを含む）	251 人
4 公務員・教職員	50 人
5 家事に従事	81 人
6 学生	14 人
7 職業についていない人（年金などで生活している人を含む）	183 人
8 その他	24 人
9 無回答	24 人



Ⅲ 各項目の調査結果と分析

問1 あなたは、観音寺市は市民一人ひとりの人権が尊重されているまちだと思いますか。
(○は1つだけ)

全体では、「そう思う」「どちらからといえばそう思う」の肯定的意識が合計 75.9%、「どちらからといえばそうは思わない」「そうは思わない」とする否定的意識は 19.7%である。
年代別に見ると、肯定的意識が 40 歳代 67.8%、30 歳代 68.2%と他の年齢層と比べて低い。高いのは 80 歳以上が 89.1%、次いで 70 歳代の 82.5%である。



	N=57	N=66	N=87	N=118	N=152	N=166	N=55	N=25
	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答
1 そう思う	17.5%	10.6%	8.0%	14.4%	11.2%	26.5%	21.8%	20.0%
2 どちらからといえばそう思う	57.9%	57.6%	59.8%	60.2%	63.8%	56.0%	67.3%	44.0%
3 どちらからといえばそうは思わない	19.3%	15.2%	26.4%	16.1%	18.4%	10.8%	5.5%	4.0%
4 そうは思わない	3.5%	9.1%	3.4%	6.8%	3.9%	0.6%	3.6%	8.0%
無回答	1.8%	7.6%	2.3%	2.5%	2.6%	6.0%	1.8%	24.0%

問2 人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。(〇はいくつでも)

全体では、前回(2017年)分析では、「子どもの人権」「障がいがある人の人権」「女性の人権」が上位を占めていたが、今回は「インターネットによる人権侵害」と回答した人の割合が「子どもの人権」「障がいがある人の人権」に次いで3番目に多くなっている。

性別年代別に見ると、「子どもの人権」に最も関心があるのは男性は30代で80.0%、女性は40代で83.7%となっている。また、「女性の人権」について、50代以上の男性は関心が低いことが分かる。

前回比較	2022	2017	差
1 女性の人権	37.7%	41.0%	-3.3%
2 子どもの人権(いじめ・虐待・貧困等)	66.1%	70.7%	-4.6%
3 高齢者の人権	34.3%	37.1%	-2.8%
4 障がいがある人の人権	49.4%	53.8%	-4.4%
5 同和問題	21.8%	26.8%	-5.0%
6 アイヌの人々の人権	5.1%	4.7%	0.4%
7 外国人の人権	10.2%	9.1%	1.1%
8 HIV感染者・ハンセン病回復者等の人権	7.3%	14.3%	-7.0%
9 刑を終えて出所した人の人権	10.1%	11.6%	-1.5%
10 犯罪被害者とその家族の人権	17.5%	21.4%	-3.9%
11 インターネットによる人権侵害	40.5%	30.2%	10.3%
12 北朝鮮当局による拉致被害者とその家族の人権問題	13.6%	19.9%	-6.3%
13 性的少数者(LGBTなど)に関する人権	17.5%	22.5%	-5.0%
14 新型コロナウイルス感染症に伴う人権問題	27.7%	-	-
16 特に関心がない	5.2%	6.2%	-1.0%

性別年代別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	無回答	
単位(%)	女性の人権	待・子どもの人権(いじめ・虐待・貧困等)	高齢者の人権	障がいがある人の人権	同和問題	アイヌの人々の人権	外国人の人権	HIV感染者・ハンセン病回復者等の人権	刑を終えて出所した人の人権	犯罪被害者とその家族の人権	インターネットによる人権侵害	北朝鮮当局による拉致被害者とその家族の人権問題	性的少数者(LGBTなど)に関する人権	新型コロナウイルス感染症に伴う人権問題	特に関心がない		
全体	N(n) 726	37.7	66.1	34.3	49.4	21.8	5.1	10.2	7.3	10.1	17.5	40.5	13.6	17.5	27.7	5.2	1.2
【男性年齢別】																	
29歳以下	24	29.2	75.0	16.7	33.3	8.3	12.5	16.7	16.7	4.2	25.0	45.8	16.7	29.2	25.0	4.2	0.0
30代	20	40.0	80.0	30.0	55.0	15.0	5.0	30.0	5.0	5.0	20.0	45.0	5.0	35.0	55.0	5.0	5.0
40代	37	29.7	67.6	16.2	37.8	29.7	2.7	13.5	5.4	13.5	21.6	48.6	13.5	24.3	21.6	10.8	0.0
50代	38	15.8	73.7	18.4	57.9	18.4	0.0	7.9	5.3	7.9	26.3	52.6	10.5	7.9	26.3	2.6	2.6
60代	65	29.2	52.3	43.1	36.9	20.0	3.1	10.8	6.2	9.2	20.0	50.8	12.3	4.6	29.2	4.6	0.0
70代	71	18.3	60.6	33.8	49.3	25.4	4.2	5.6	5.6	15.5	15.5	29.6	9.9	5.6	22.5	12.7	2.8
80歳以上	21	9.5	42.9	33.3	38.1	38.1	4.8	9.5	9.5	9.5	4.8	23.8	19.0	9.5	9.5	4.8	0.0
【女性年齢別】																	
29歳以下	33	57.6	69.7	21.2	48.5	15.2	6.1	24.2	9.1	3.0	15.2	54.5	3.0	51.5	30.3	0.0	0.0
30代	45	51.1	80.0	15.6	46.7	13.3	6.7	13.3	2.2	8.9	24.4	48.9	6.7	40.0	31.1	4.4	0.0
40代	49	55.1	83.7	38.8	51.0	26.5	6.1	10.2	8.2	14.3	14.3	28.6	12.2	28.6	38.8	4.1	0.0
50代	80	52.5	68.8	27.5	56.3	27.5	6.3	7.5	7.5	7.5	15.0	55.0	10.0	17.5	32.5	1.3	0.0
60代	85	54.1	69.4	43.5	50.6	24.7	4.7	9.4	8.2	10.6	15.3	31.8	14.1	10.6	28.2	5.9	0.0
70代	94	30.9	59.6	55.3	56.4	18.1	4.3	6.4	9.6	10.6	16.0	31.9	23.4	10.6	25.5	5.3	0.0
80歳以上	33	30.3	57.6	42.4	60.6	24.2	6.1	9.1	12.1	21.2	21.2	24.2	30.3	12.1	21.2	6.1	3.0

問3 過去5年の間に、ご自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。

年代別では、40代が18.4%と最も多い。70代以降は、比較的人権を侵害されたと感じる人が少なくなっている。

職業別では、「その他」を除けば、「民間企業や団体の経営者・役員」(21.4%)「民間企業や団体の社員・職員」(19.5%)「学生」(14.3%)となっている。

性別では、「ある」と回答した人が男性より女性の方が5.7%高くなっている。

1 ある 101人 2 ない 621人 3 無回答 4人

	N=57	N=66	N=87	N=118	N=152	N=166	N=55	N=25	N=726
年代別	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	合計
1 ある	15.8%	13.6%	18.4%	16.1%	13.8%	9.6%	10.9%	20.0%	13.9%
2 ない	84.2%	86.4%	81.6%	83.9%	86.2%	89.8%	89.1%	68.0%	85.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	12.0%	0.6%

	N=85	N=14	N=251	N=50	N=81	N=14	N=183	N=24	N=24
職業別	自営業・個人事業主	民間企業や団体の経営者・役員	民間企業や団体の社員・職員	公務員・教職員	家事に従事	学生	職業についていない人(年金生活者含む)	その他	無回答
1 ある	9.4%	21.4%	19.5%	6.0%	9.9%	14.3%	9.3%	25.0%	20.8%
2 ない	90.6%	78.6%	80.5%	94.0%	90.1%	85.7%	90.2%	75.0%	66.7%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	12.5%

	N=276	N=419	N=3	N=28
性別	男	女	その他	無回答
1 ある	10.1%	15.8%	33.3%	21.4%
2 ない	89.9%	84.0%	66.7%	67.9%
無回答	0.0%	0.2%	0.0%	10.7%

問3-1 問3で「ある」と答えた方にお聞きします。それは、どのようなことでしたか。

(〇はいくつでも)

「ある」と回答した101人の約半数が、「パワーハラスメント」(49.5%)「うわさや陰口・悪口により名誉や信用を傷つけられた」(47.5%)と回答している。

職業別では、「自営業・個人事業主」は、「うわさや陰口・悪口により名誉や信用を傷つけられた」「プライバシーの侵害」が50%、「民間企業や団体の社員・職員」は「パワーハラスメント」65.3%、「公務員・教職員」は「パワーハラスメント」66.7%、

「家事に従事」は「うわさや陰口・悪口により名誉や信用を傷つけられた」87.5%との結果がでている。

性別年代別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
単位 (%)	うわさや陰口、悪口により名誉や信用を傷つけられた	公的機関や企業、団体による不当な扱い(就職差別など)	地域での暴力・脅迫・無理じい・仲間はずれ	家庭での暴力や虐待	学校でのいじめや体罰	差別待遇(信条・性別・社会的身分・心身の障がいなどによる不当な扱い)	プライバシーの侵害	地位や人間関係などの優位性を用いて行う嫌がらせやいじめ	パワー・ハラスメント(職場で地位や人間関係などの優位性を用いて行う嫌がらせやいじめ)	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	ストーカー行為	インターネット(パソコン、スマートフォンなど)を悪用した人権侵害	その他(具体的に)	無回答
全体	N(n) 101	47.5	10.9	10.9	5.0	5.9	18.8	49.5	6.9	4.0	3.0	4.0	5.9	

【男性年齢別】

29歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40代	10	50.0	40.0	20.0	0.0	20.0	30.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50代	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
60代	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70代	6	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
80歳以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【女性年齢別】

29歳以下	9	44.4	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	44.4	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	6	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
40代	6	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50代	14	50.0	7.1	14.3	0.0	7.1	7.1	7.1	78.6	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
60代	16	68.8	6.3	18.8	6.3	0.0	0.0	12.5	50.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0
70代	10	50.0	10.0	10.0	0.0	10.0	20.0	30.0	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0
80歳以上	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

職業別	N=8	N=3	N=49	N=3	N=8	N=2	N=17	N=6	N=5
	自営業・個人事業主	民間企業や団体の経営者・役員	民間企業や団体の社員・職員	公務員・教職員	家事に従事	学生	職業についていない人(年金生活者含む)	その他	無回答
うわさや陰口、悪口により名誉や信用を傷つけられた	50.0%	33.3%	46.9%	0.0%	87.5%	50.0%	35.3%	66.7%	40.0%
公的機関や企業、団体による不当な扱い(就職差別など)	25.0%	33.3%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%
地域での暴力・脅迫・無理じい・仲間はずれ	12.5%	33.3%	16.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%
家庭での暴力や虐待	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	50.0%	5.9%	0.0%	40.0%
学校でのいじめや体罰	0.0%	0.0%	8.2%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
差別待遇(信条・性別・社会的身分・心身の障がいなどによる不当な扱い)	12.5%	0.0%	10.2%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%	20.0%
プライバシーの侵害	50.0%	33.3%	10.2%	0.0%	25.0%	50.0%	29.4%	16.7%	0.0%
パワー・ハラスメント(職場で地位や人間関係などの優位性を用いて行う嫌がらせやいじめ)	12.5%	33.3%	65.3%	66.7%	37.5%	0.0%	41.2%	16.7%	60.0%
セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	0.0%	0.0%	10.2%	33.3%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%
ストーカー行為	0.0%	0.0%	2.0%	33.3%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%
インターネットを悪用した人権侵害	12.5%	33.3%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他(具体的に)	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	5.9%	16.7%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	60.0%

問3-2 問3で「ある」と答えた方にお聞きします。それは、どのようなことが要因ですか。
(○はいくつでも)

全体では、「わからない」が24.8%、「学歴・出身校」15.8%、「年齢」「職業・職種」「病
気」14.9%と続いている。

性別年代別では、「学歴・出身校」と回答した割合が高いのは男性では60代、女性では
40代となっている。また、「年齢」では、男性は60代以上、女性は50代以下に回答して
いる人が多い。

性別年代別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		
単位(%)	年齢	性別	学歴・ 出身校	収入・ 財産	職業・ 職種	出身地・ 家柄	思想・ 信条	ひとり 親家庭	容姿	障がい	病気	その他 (具体的に)	わからない	無回答	
全体	N(n) 101	14.9	10.9	15.8	11.9	14.9	5.9	10.9	6.9	11.9	12.9	14.9	21.8	24.8	5.0
【男性年齢別】															
29歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40代	10	0.0	0.0	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	10.0	30.0	30.0	10.0	20.0	20.0	0.0
50代	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0
60代	4	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	25.0	0.0	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0
70代	6	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0
80歳以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
【女性年齢別】															
29歳以下	9	22.2	33.3	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	44.4	0.0
30代	6	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0
40代	6	16.7	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0
50代	14	28.6	21.4	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	14.3	7.1	14.3	21.4	28.6	0.0
60代	16	12.5	12.5	12.5	0.0	6.3	6.3	18.8	6.3	6.3	0.0	18.8	31.3	25.0	0.0
70代	10	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0	10.0	40.0	0.0	20.0
80歳以上	5	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0

問3-3 問3で「ある」と答えた方にお聞きします。人権を侵害されたとき、なにはどうされましたか。(○は主だったもの2つまで)

全体では、前回(2012年)と同様、「何もしないで我慢した」50.5%「友人・同僚・上司に相談した」29.7%「家族や親戚に相談した」25.7%が上位を占めている。また、公的機関(行政・法務局・警察など)に対する相談も微増しているものの割合は少ない。

	過去比較	2022	2012	差
1	友人・同僚・上司に相談した	29.7%	20.9%	8.8%
2	警察・弁護士・裁判所に相談した	5.0%	2.6%	2.4%
3	法務局・人権擁護委員に相談した	2.0%	1.9%	0.1%
4	市や県の行政に相談した	5.0%	3.4%	1.5%
5	家族や親戚に相談した	25.7%	26.7%	-0.9%
6	相手に抗議するなど自分で解決した	15.8%	11.1%	4.8%
7	何もしないで我慢した	50.5%	51.8%	-1.3%
8	その他(具体的に)	5.9%	7.0%	-1.1%
	無回答	5.0%	33.7%	-28.7%

問4 インターネット上の差別書き込み、誹謗、中傷等を、あなたは見たことがありますか

全体では、「ある」32.0%、「ない」66.4%と、前回調査と比較して、「ある」と答えた人は5.4%増えている。年代別では、若年層を中心に「ある」と答えている。

職業別では、民間企業や団体の経営者・役員が「ある」57.1%「ない」35.7%と、「ある」と答えた人が「ない」と答えた人の割合を上回っている。

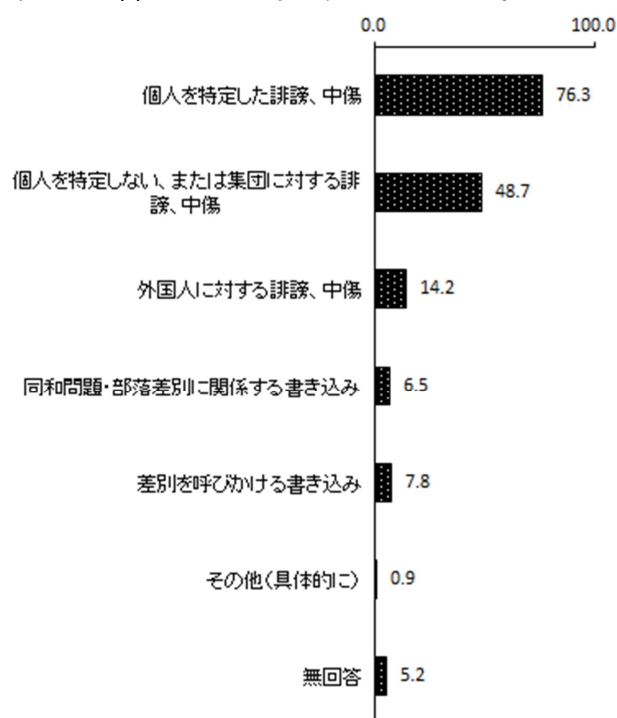
	2022	2017	差
1 ある	32.0%	26.5%	5.4%
2 ない	66.4%	68.9%	-2.5%
無回答	1.7%	4.6%	-3.0%

年齢別	N=57		N=66		N=87		N=118		N=152		N=166		N=55		N=25	
	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答								
1 ある	73.7%	65.2%	44.8%	36.4%	25.0%	7.8%	7.3%	40.0%								
2 ない	26.3%	34.8%	55.2%	62.7%	74.3%	88.0%	92.7%	48.0%								
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.7%	4.2%	0.0%	12.0%								

職業別	N=85		N=14		N=251		N=50		N=81		N=14		N=183		N=24		N=24	
	自営業・個人事業主	民間企業や団体の経営者・役員	民間企業や団体の社員・職員	公務員・教職員	家事に従事	学生	職業についていない人(年金生活者含む)	その他	無回答									
1 ある	25.9%	57.1%	41.0%	46.0%	28.4%	50.0%	14.2%	41.7%	41.7%									
2 ない	72.9%	35.7%	59.0%	52.0%	69.1%	50.0%	83.6%	58.3%	45.8%									
無回答	1.2%	7.1%	0.0%	2.0%	2.5%	0.0%	2.2%	0.0%	12.5%									

問4-1 問4で「ある」と答えた方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。

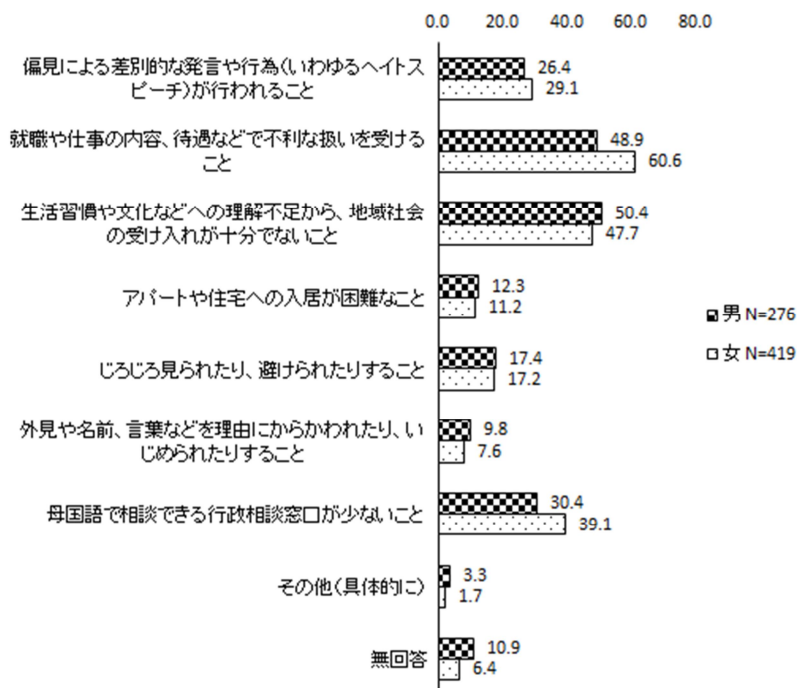
全体では「個人を特定した誹謗、中傷」が最も多く76.3%、次いで「個人を特定しない、または集団に対する誹謗、中傷」が48.7%「外国人に対する誹謗、中傷」14.2%と、誹謗中傷を見たと答えた人が多くなっている。



問5 あなたは、日本に居住する外国人について、どのような人権問題が起きていると思いますか。

全体では、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な扱いを受けること」が56.1%と多く、次いで「生活習慣や文化などの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でないこと」、「母国語で相談できる窓口が少ないこと」となっている。性別に見ると、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な扱いを受けること」と答えた人は、女性が男性に比べて11.7ポイント多い。

年代別では、「外見や名前、言葉などを理由にからかわれたり、いじめられたりすること」と答えた人が18・19歳と20歳代が他の年代と比べて高くなっている。



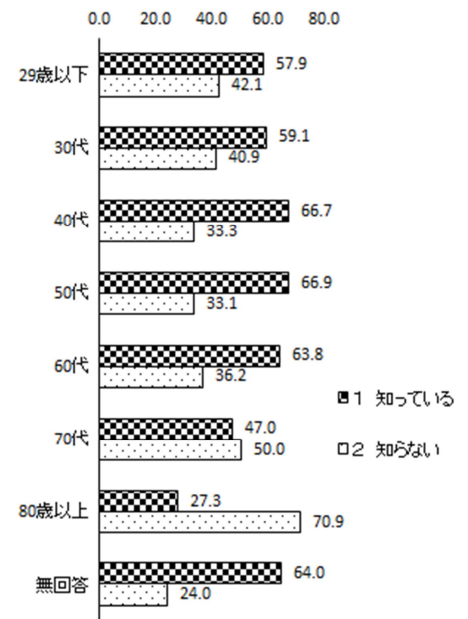
性別年代別	単位 (%)	1 2 3 4 5 6 7 8								無回答
		1	2	3	4	5	6	7	8	
全体	N(n) 726	28.0	56.1	48.6	12.0	17.2	8.5	35.8	2.3	8.5
【男性年齢別】										
29歳以下	24	45.8	62.5	33.3	4.2	16.7	45.8	25.0	4.2	8.3
30代	20	25.0	55.0	50.0	10.0	35.0	30.0	30.0	0.0	10.0
40代	37	16.2	40.5	43.2	16.2	21.6	10.8	40.5	8.1	2.7
50代	38	34.2	65.8	57.9	10.5	7.9	5.3	31.6	2.6	5.3
60代	65	26.2	47.7	56.9	13.8	21.5	0.0	33.8	1.5	10.8
70代	71	22.5	43.7	46.5	11.3	16.9	4.2	31.0	2.8	18.3
80歳以上	21	23.8	33.3	61.9	19.0	0.0	4.8	4.8	4.8	14.3
【女性年齢別】										
29歳以下	33	33.3	69.7	33.3	3.0	39.4	24.2	36.4	0.0	6.1
30代	45	37.8	53.3	46.7	8.9	15.6	13.3	48.9	2.2	2.2
40代	49	34.7	63.3	36.7	18.4	24.5	10.2	36.7	0.0	2.0
50代	80	32.5	66.3	48.8	15.0	18.8	6.3	35.0	2.5	2.5
60代	85	37.6	69.4	60.0	9.4	15.3	4.7	42.4	1.2	3.5
70代	94	17.0	58.5	44.7	10.6	9.6	3.2	36.2	2.1	12.8
80歳以上	33	9.1	27.3	54.5	9.1	9.1	3.0	42.4	3.0	18.2

問6 あなたは特定の外国人を一方的に排除、差別する活動であるヘイトスピーチという人権問題があることを知っていますか。

前回調査と比べて、「知っている」と答えた人は14.0%増え57.2%と、「知らない」と答えた人の割合を逆転している。

年代別では、70歳以上の年代は「知らない」と答えた人が「知っている」と答えた人の割合を上回っているが、それ以外の年代は「知っている」と答えた人の割合が上回っている。

	N=726	N=1,063	差
1 知っている	57.2%	43.2%	14.0%
2 知らない	41.6%	53.2%	-11.6%
無回答	1.2%	3.6%	-2.3%

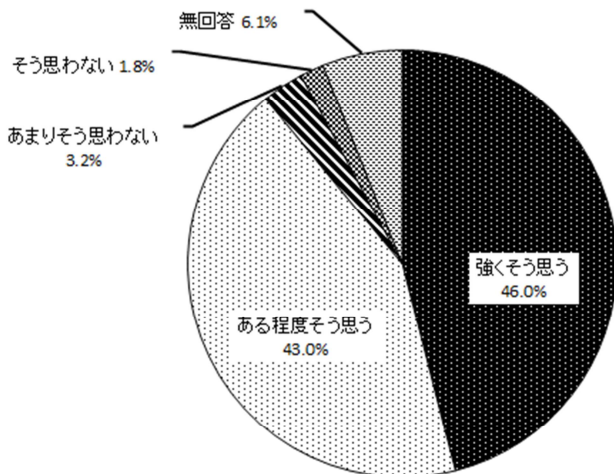


問6-1 ヘイトスピーチは許されない行為だと思いますか

全体では「強くそう思う」「ある程度そう思う」と肯定的な回答をした人は89.0%と多数を占めている。

年代別に見ると、否定的な回答をした人は60歳代以上を中心に回答していることが分かる。

職業別では、「そう思わない」と答えた人が自営業・個人事業主で7.1%と他の職業と比べて高くなっている。



	N=57	N=66	N=87	N=118	N=152	N=166	N=55
	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
1 強くそう思う	52.6%	51.5%	44.8%	45.8%	49.3%	41.0%	32.7%
2 ある程度そう思う	21.1%	42.4%	47.1%	52.5%	42.8%	41.0%	36.4%
3 あまりそう思わない	5.3%	3.0%	2.3%	0.8%	2.6%	4.8%	5.5%
4 そう思わない	0.0%	0.0%	1.1%	0.8%	2.0%	3.0%	3.6%

	N=85	N=14	N=251	N=50	N=81	N=14	N=183	N=24	N=24
	自営業・個人事業主	民間企業や団体の経営者・役員	民間企業や団体の社員・職員	公務員・教職員	家事に従事	学生	職業についていない人(年金生活者含む)	その他	無回答
1 強くそう思う	42.4%	14.3%	45.4%	80.0%	50.6%	78.6%	39.3%	41.7%	33.3%
2 ある程度そう思う	40.0%	78.6%	51.0%	16.0%	40.7%	21.4%	40.4%	37.5%	50.0%
3 あまりそう思わない	1.2%	7.1%	1.6%	2.0%	1.2%	0.0%	6.6%	12.5%	0.0%
4 そう思わない	7.1%	0.0%	0.4%	2.0%	1.2%	0.0%	1.6%	0.0%	4.2%

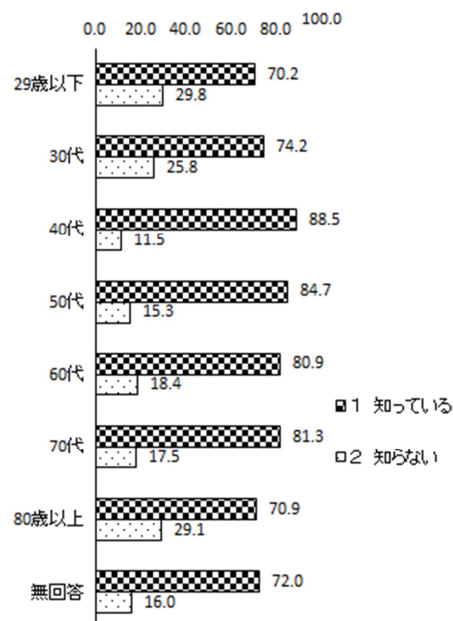
問7 あなたは、現在もなお「同和問題」、「部落差別」といわれる人権問題があることを知っていますか。

前回調査時から比べると「知っている」と答えた人が80.0%と15.9%減少している。

年代別にみると「知らない」と答えた人が29歳以下29.8%、80歳代が29.1%、30歳代が25.8%と他の年代より高く、認知度が低いことが分かる。

職業別にみると、「公務員・教職員」は「知っている」が94.0%で最も多い。一方、「学生」は「知っている」が78.6%にとどまっている。

	N=726	N=1,063	差
	2022	2017	
1 知っている	80.0%	96.0%	-15.9%
2 知らない	19.1%	3.1%	16.0%
無回答	0.8%	0.9%	-0.1%



	N=85	N=14	N=251	N=50	N=81	N=14	N=183	N=24
	自営業・個人事業主	民間企業や団体の経営者・役員	民間企業や団体の社員・職員	公務員・教職員	家事に従事	学生	職業についていない人(年金生活者含む)	その他
1 知っている	84.7%	85.7%	79.7%	94.0%	80.2%	78.6%	76.5%	70.8%
2 知らない	15.3%	14.3%	19.9%	6.0%	18.5%	21.4%	23.0%	29.2%
無回答	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	1.2%	0.0%	0.5%	0.0%

問7-1 問7で「知っている」と答えた方にお聞きします。同和問題について、あなたが初めて知ったきっかけは何ですか。

全体では、前回調査同様「家族から聞いた」35.3%、「学校の授業で教わった」31.2%と、この2つが知るきっかけとなっている。

年代別にみると40歳代以下は「学校の授業で教わった」が最も高いが、50歳代以上は「家族から聞いた」と答えた人が一番多くを占める結果となった。

	N=581			N=1,020			年代別							
	2022	2017	差	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答			
家族から聞いた	35.3%	33.7%	1.6%	30.0%	28.6%	27.3%	39.0%	50.4%	33.3%	23.1%	16.7%			
親戚の人から聞いた	3.6%	1.4%	2.2%	0.0%	10.2%	2.6%	1.0%	4.1%	3.0%	10.3%	0.0%			
近所の人から聞いた	7.1%	3.6%	3.4%	2.5%	0.0%	6.5%	3.0%	6.5%	11.1%	20.5%	5.6%			
友人から聞いた	12.4%	8.4%	4.0%	2.5%	6.1%	7.8%	11.0%	13.0%	22.2%	12.8%	0.0%			
職場の人から聞いた	7.1%	4.5%	2.5%	5.0%	8.2%	5.2%	7.0%	7.3%	8.9%	7.7%	0.0%			
学校の授業で教わった	31.2%	33.5%	-2.4%	65.0%	44.9%	55.8%	33.0%	22.0%	13.3%	5.1%	55.6%			
インターネットで知った	1.7%	-	-	2.5%	10.2%	2.6%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%			
テレビ・新聞などで見聞きした	9.8%	8.4%	1.4%	7.5%	8.2%	5.2%	7.0%	10.6%	11.1%	20.5%	16.7%			

問 7-2 問 7 で「知っている」と答えた方にお聞きします。同和問題について、あなたが初めて知ったのはいつ頃ですか。

全体では、「小学校の時または 7 歳以上 12 歳まで」40.8%、「中学校の時または 13 歳以上 15 歳まで」28.1%である。前回調査(2007 年)と比較してもこの 2 つが多くを占め、割合もほぼ近似していることがわかる。※同様の設問を行った直近の年度は 2007 年度

	2022	2007	差
1 小学校入学前または6歳以下	1.9%	3.8%	-1.9%
2 小学校の時または7歳以上12歳まで	40.8%	40.0%	0.8%
3 中学校の時または13歳以上15歳まで	28.1%	24.6%	3.4%
4 高校の時または16歳以上18歳まで	9.3%	7.3%	2.0%
5 大学の時または19歳以上22歳まで	4.1%	8.0%	-3.9%
6 23歳以上	4.5%		-
7 はっきりと覚えていない	10.0%	11.0%	-1.1%
8 その他(具体的に)	0.2%	1.0%	-0.8%
無回答	2.1%	4.2%	-2.2%

問 7-3 問 7 で「知っている」と答えた方にお聞きします。同和問題に関して、あなたは過去 5 年の間に、どのような差別の事実を見聞きしたことがありますか。

全体では、「見聞きしたのではない」と答えた人が 36.7%と一番多い結果となったが、「結婚問題での周囲の反対」が 30.1%、「差別的な言動」が 19.8%、「身元調査を実施すること」が 16.0%と回答しており、過去 5 年間で見聞きした人も多くいることがわかる。

また、年代別にみると「地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い」を回答した年代が 30 歳代・29 歳以下に多い。

性別年代別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	
単位(%)	差別的な言動	差別的な落書き	インターネットの掲載を悪用した	就職・職場での差別・不利	結婚問題での周囲の反対	身元調査を実施すること	地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	込み、問題の「ええ同和行い」	見聞きしたのではない	その他(具体的に)	分からない		
全体 N(n)	581	19.8	3.6	9.3	7.6	30.1	16.0	9.3	5.9	36.7	1.7	6.2	4.0
【男性年齢別】													
29歳以下	18	27.8	5.6	16.7	0.0	16.7	5.6	11.1	0.0	38.9	0.0	11.1	0.0
30代	12	25.0	8.3	25.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0
40代	34	17.6	2.9	8.8	8.8	20.6	8.8	14.7	5.9	47.1	2.9	8.8	0.0
50代	31	16.1	9.7	19.4	6.5	25.8	19.4	3.2	12.9	35.5	0.0	9.7	3.2
60代	51	25.5	3.9	11.8	7.8	29.4	15.7	13.7	7.8	29.4	3.9	2.0	2.0
70代	57	15.8	3.5	0.0	10.5	28.1	10.5	8.8	12.3	43.9	1.8	5.3	14.0
80歳以上	18	11.1	5.6	5.6	5.6	38.9	16.7	5.6	0.0	27.8	0.0	11.1	11.1
【女性年齢別】													
29歳以下	22	40.9	9.1	31.8	22.7	40.9	27.3	18.2	4.5	18.2	0.0	9.1	0.0
30代	36	27.8	0.0	13.9	8.3	33.3	27.8	13.9	0.0	22.2	2.8	5.6	0.0
40代	42	19.0	2.4	11.9	2.4	28.6	9.5	4.8	7.1	42.9	4.8	7.1	0.0
50代	69	26.1	5.8	11.6	5.8	18.8	14.5	10.1	5.8	34.8	0.0	7.2	0.0
60代	70	18.6	4.3	7.1	11.4	38.6	18.6	7.1	5.7	40.0	0.0	2.9	1.4
70代	77	10.4	0.0	1.3	5.2	32.5	15.6	7.8	5.2	46.8	0.0	5.2	6.5
80歳以上	20	10.0	0.0	0.0	5.0	50.0	10.0	5.0	5.0	20.0	10.0	0.0	5.0

問8 今、同和問題に関する情報を得ようとする場合、あなたは主にどのような方法を使いますか。

全体では、前回同様「インターネットで調べる」と答えた人が最も多く 40.6%と前回と比較して 5%増えている。

	N=726	N=1,063	
	2022	2017	差
同和問題に関する書籍等を読む	10.3%	12.4%	-2.1%
関係団体に問い合わせる	3.0%	2.2%	0.9%
行政機関に問い合わせる	6.2%	6.4%	-0.2%
インターネットで調べる	40.6%	35.7%	5.0%
家族・友人等に聞く	14.9%	15.9%	-1.0%
分からない	22.7%	17.8%	4.9%
その他(具体的に)	3.0%	2.6%	0.4%
無回答	2.9%	4.0%	-1.1%

問9 あなたは、友人や知人が同和地区の出身であるとわかった場合、どうされますか。

(○は1つだけ)

全体では、「これまでと同じようにつきあう」が 73.8%で前回調査より 5.4 ポイント増加しているが、「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいをさけていく」や「つきあいは、やめてしまう」と否定的な回答をした人は 10.3%、「分からない」と回答した人は 13.1% いる結果になった。

年代別では、年代が上がるにつれ否定的な回答をしている人の割合が高くなる傾向にある。

	N=726	N=1,063	
	2022	2017	差
これまでと同じようにつきあう	73.8%	68.4%	5.4%
表面的にはつきあうが、できるだけつきあいをさけていく	9.9%	12.4%	-2.5%
つきあいは、やめてしまう	0.4%	0.6%	-0.2%
その他(具体的に)	1.4%	0.6%	0.8%
分からない	13.1%	13.3%	-0.2%
無回答	1.4%	1.7%	-0.3%

	N=57	N=66	N=87	N=118	N=152	N=166	N=55	N=25
	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答
これまでと同じようにつきあう	78.9%	71.2%	81.6%	78.0%	73.0%	69.3%	70.9%	64.0%
表面的にはつきあうが、できるだけつきあいをさけていく	1.8%	9.1%	5.7%	7.6%	14.5%	13.3%	5.5%	16.0%
つきあいは、やめてしまう	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	1.8%	0.0%
その他(具体的に)	0.0%	0.0%	2.3%	0.8%	0.7%	2.4%	3.6%	0.0%
分からない	17.5%	19.7%	10.3%	13.6%	11.2%	12.0%	16.4%	4.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	1.8%	16.0%

問9-1 問9で「これまでと同じようにつきあう」と答えた方にお聞きします。どのような理由でそう思いましたか。(○はあなたの考えに近い上位2つまで)

全体では「友人・知人なら同和問題は影響しない」42.9%、「部落差別はしたくないから」42.2%、「部落差別は間違っているから」41.4%の順である。

性別では男性は「友人・知人なら同和問題は影響しない」が47.8%と一番高く、女性は「部落差別は間違っているから」が45.3%で一番高かった。

	N=536	N=201	N=316
	全体	男	女
部落差別はしたくないから	42.2%	38.3%	44.9%
部落差別は間違っているから	41.4%	33.8%	45.3%
差別をしていると思われたくないから	3.9%	4.5%	3.8%
友人・知人なら同和問題は影響しない	42.9%	47.8%	39.9%
無回答	2.6%	3.0%	1.3%

問10 あなたが結婚を決めた人が、同和地区の出身であるとわかった場合、あなたならどうされますか。(○は1つだけ)

全体で「～結婚する」と回答した人は合計で47.0%、前回調査同様に「～結婚する」と回答した人は合計で36.0%であり、今回の調査で11.0ポイント増加している。しかしながら、「分からない」と回答した人が、33.6%と、前回調査より6.4%下がっているが、高い回答率となっている。

年代別では、「～結婚する」と回答した人の割合が、29歳以下が70%を超えて、その後年代が高くなるにつれて割合が下がっている。

N=726		N=1,063		差
2022調査		2017調査		
迷わず結婚する	15.0%	当然結婚する	16.6%	-1.5%
迷うことがあったとしても、結婚する	32.0%	家族や親せきに反対されたとしても説得して結婚する	18.1%	
迷ったうえ、あきらめる	9.0%	家族や親せきの反対を押し切っても結婚する	1.3%	
結婚することをあきらめる	6.3%	結婚をあきらめる	15.8%	-9.5%
その他(具体的に)	2.6%	その他(具体的に)	2.0%	0.6%
分からない	33.6%	分からない	40.0%	-6.4%
無回答	1.5%	無回答	3.2%	-1.7%

	N=57	N=66	N=87	N=118	N=152	N=166	N=55	N=25
	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答
迷わず結婚する	42.1%	24.2%	20.7%	10.2%	10.5%	6.6%	10.9%	24.0%
迷うことがあったとしても、結婚する	31.6%	36.4%	36.8%	38.1%	34.2%	25.3%	23.6%	24.0%
迷ったうえ、あきらめる	0.0%	4.5%	5.7%	8.5%	11.8%	10.2%	16.4%	12.0%
結婚することをあきらめる	1.8%	9.1%	0.0%	7.6%	6.6%	9.6%	7.3%	0.0%
その他(具体的に)	1.8%	4.5%	4.6%	1.7%	0.7%	2.4%	3.6%	8.0%
分からない	22.8%	21.2%	32.2%	33.9%	36.2%	41.6%	38.2%	16.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	16.0%

問 11 あなたのお子さんやお孫さんが結婚を決めた人が、同和地区の出身であるとわかった場合、あなたならどうされますか。(○は1つだけ)

全体では「～賛成する」と回答した人が合計で 47.6%、前回調査で「当然祝福する」、「二人の結婚を応援する」と回答した人が合計で 28.9%であり、18.7ポイント上昇している。一方で、「分からない」と回答した人が 30.4%と高い割合にある。

年代別では問 10 同様「～賛成する」と肯定的な回答をした人の割合は年齢が高くなるにつれて低い傾向にある。

2022調査		2017調査		差
迷わず賛成する	12.9%	当然祝福する	14.2%	-1.3%
迷うことがあったとしても、賛成する	34.7%	二人の結婚を応援し、反対する家族や親せきがいたら説得する	14.7%	
迷ったうえ、反対する	12.5%	親や祖父母としては反対だが、本人の意思が強ければ仕方が無い	23.7%	
絶対に反対する	4.0%	絶対に反対	7.3%	-3.3%
		結婚には賛成だが、家族や親せきの反対があれば、考え直すよう説得する	7.7%	
その他(具体的に)	3.7%	その他(具体的に)	1.8%	1.9%
分からない	30.4%	分からない	25.8%	4.7%
無回答	1.7%	無回答	1.7%	-0.0%

	N=57	N=66	N=87	N=118	N=152	N=166	N=55	N=25
	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答
迷わず賛成する	42.1%	24.2%	16.1%	10.2%	7.9%	6.6%	3.6%	12.0%
迷うことがあったとしても、賛成する	33.3%	28.8%	41.4%	39.8%	36.8%	29.5%	32.7%	32.0%
迷ったうえ、反対する	3.5%	12.1%	6.9%	8.5%	15.1%	18.1%	16.4%	12.0%
絶対に反対する	1.8%	3.0%	0.0%	6.8%	4.6%	4.2%	5.5%	4.0%
その他(具体的に)	0.0%	6.1%	9.2%	0.8%	3.9%	1.8%	5.5%	8.0%
分からない	19.3%	25.8%	26.4%	33.1%	31.6%	35.5%	36.4%	16.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	4.2%	0.0%	16.0%

問 12 結婚や就職などで身元調査を行うことについて、あなたはどのように思いますか。

(○は1つだけ)

「必要ない」と正しい認識をしている人が 35.5%と前回調査時の 29.7%から 5.8%増加しており、身元調査に否定的な考えは広がりつつあるが、「やむを得ない」「必要なことだ」「分からない」と回答した人が合計で 62.3%と、結婚や就職問題と関わって身元調査意識は、依然として根強いものがある。

	N=726	N=1,063	差
	2022	2017	
みんながやっているからやむを得ない	15.4%	17.6%	-2.2%
必要なことだ	22.5%	24.6%	-2.1%
必要ない	35.5%	29.7%	5.8%
分からない	24.4%	26.2%	-1.8%
無回答	2.2%	2.0%	0.2%

問 12-1 問12で「みんながやっているからやむを得ない」「必要なことだ」と答えた方にお聞きします。どのようなことを重視しますか。(あなたの考えに近い上位2つまで)

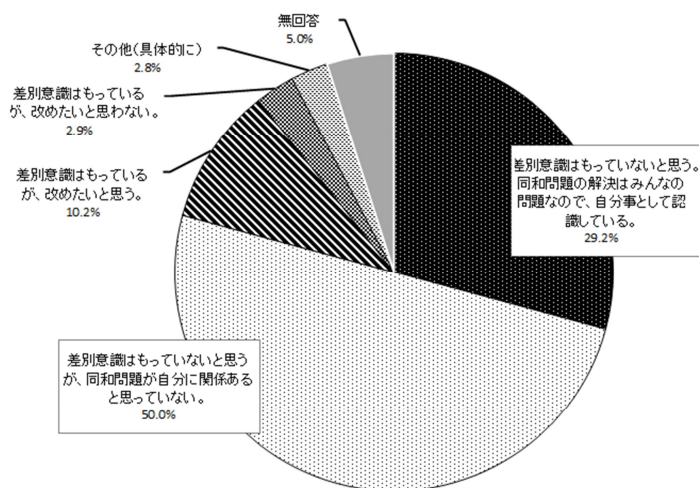
身元調査で重視するのは「本人や家族の評判」62.2%が最も多い。続いて「学歴・職業・収入」32.0%、「出身地」26.5%、「障がい・病歴」23.3%と続く。

	N=275	N=448	差
1 出身地	26.5%	26.6%	-0.0%
2 学歴・職業・収入	32.0%	26.8%	5.2%
3 障がい・病歴	23.3%	25.0%	-1.7%
4 本人や家族の評判	62.2%	60.9%	1.2%
5 家族の財産	1.5%	1.1%	0.3%
6 国籍や人種	7.6%	9.2%	-1.5%
7 その他(具体的に)	5.1%	3.3%	1.7%
無回答	6.2%	7.6%	-1.4%

問 13 同和問題について、あなたの考えに近いのはどれですか。(○は1つだけ)

差別心の有無について、「もっていない」と考えている人は79.2%おり、そのうち「自分事」ととらえているのは29.2%、「関係ない」=無関心と考えているのは50.0%いる。差別心を「もっている」と考える人は13.1%で、「改めたい」が10.2%、「改めたいと思わない」が2.8%である。

職業別では、「自分事として認識」は、「公務員・教職員」が74.0%と最も高い。「自分とは関係ない」が半数を超えるのは、「学生」64.3%、「民間企業や団体の社員・職員」60.6%、「自営業・個人事業主」54.1%、「民間企業や団体の経営者役員」50.0%である。



	N=85	N=14	N=251	N=50	N=81	N=14	N=183	N=24	N=24
	自営業・個人事業主	民間企業や団体の経営者・役員	民間企業や団体の社員・職員	公務員・教職員	家事に従事	学生	職業についていない人(年金生活者含む)	その他	無回答
差別意識はもっていないと思う。同和問題の解決はみんなの問題なので、自分事として認識している。	22.4%	35.7%	18.3%	74.0%	38.3%	28.6%	30.6%	33.3%	25.0%
差別意識はもっていないと思うが、同和問題が自分に関係あると思っていない。	54.1%	50.0%	60.6%	16.0%	44.4%	64.3%	43.7%	50.0%	54.2%
差別意識はもっているが、改めたいと思う。	10.6%	0.0%	12.0%	4.0%	11.1%	7.1%	11.5%	4.2%	4.2%
差別意識はもっているが、改めたいと思わない。	3.5%	0.0%	2.8%	0.0%	1.2%	0.0%	5.5%	0.0%	0.0%
その他(具体的に)	3.5%	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%	0.0%	2.2%	4.2%	0.0%
無回答	5.9%	14.3%	2.4%	2.0%	4.9%	0.0%	6.6%	8.3%	16.7%

問 14A 行政として同和問題を解決するために、あなたは何が必要と思いますか。

(○はいくつでも)

「同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める」が59.2%と最も多く、次いで、「同和問題に関する教育・啓発活動を推進する」が34.7%となっている。

性別年代別では、「同和問題に関する教育・啓発活動を推進する」において、男女とも29歳以下が他と比べて高い割合で回答されている。

職業別では、「民間企業や団体の経営者・役員」の回答で一番高い割合が「えせ同和行為を排除する」であった。

性別年代別		同和問題に関する教育・啓発活動を推進する	同和問題に関する相談体制を充実させる	部落差別の実態調査を行い、現状を把握する	えせ同和行為(差別を排除する)	同和問題にわたって限定せず、人権全般にわたつての意識を高める	その他(具体的に)	分からない	無回答
単位(%)									
全体	N(n) 726	34.7	21.5	23.0	23.6	59.2	2.8	8.5	2.3
【男性年齢別】									
29歳以下	24	41.7	20.8	33.3	33.3	29.2	8.3	8.3	0.0
30代	20	35.0	40.0	45.0	25.0	50.0	0.0	15.0	5.0
40代	37	27.0	21.6	32.4	37.8	54.1	2.7	10.8	0.0
50代	38	26.3	13.2	23.7	34.2	60.5	5.3	2.6	0.0
60代	65	33.8	18.5	21.5	27.7	52.3	4.6	10.8	1.5
70代	71	29.6	12.7	15.5	28.2	53.5	4.2	11.3	7.0
80歳以上	21	33.3	19.0	9.5	4.8	71.4	4.8	19.0	0.0
【女性年齢別】									
29歳以下	33	60.6	33.3	42.4	21.2	63.6	3.0	6.1	0.0
30代	45	37.8	31.1	40.0	37.8	55.6	4.4	4.4	0.0
40代	49	44.9	24.5	28.6	24.5	55.1	4.1	4.1	0.0
50代	80	42.5	27.5	22.5	20.0	60.0	0.0	6.3	1.3
60代	85	35.3	21.2	24.7	18.8	76.5	1.2	5.9	0.0
70代	94	26.6	16.0	8.5	18.1	64.9	1.1	10.6	4.3
80歳以上	33	33.3	12.1	6.1	3.0	51.5	3.0	18.2	0.0

	N=85	N=14	N=251	N=50	N=81	N=14	N=183	N=24	N=24
	自営業・個人事業主	民間企業や団体の経営者・役員	民間企業や団体の社員・職員	公務員・教職員	家事に従事	学生	職業についていない人(年金生活者含む)	その他	無回答
同和問題に関する教育・啓発活動を推進する	28.2%	28.6%	30.3%	68.0%	42.0%	57.1%	30.1%	54.2%	16.7%
同和問題に関する相談体制を充実させる	18.8%	0.0%	20.3%	44.0%	18.5%	28.6%	18.6%	29.2%	29.2%
部落差別の実態調査を行い、現状を把握する	18.8%	50.0%	28.3%	30.0%	19.8%	35.7%	11.5%	45.8%	20.8%
えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	18.8%	57.1%	26.3%	30.0%	14.8%	21.4%	22.4%	25.0%	16.7%
同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める	58.8%	50.0%	56.2%	68.0%	60.5%	50.0%	61.7%	62.5%	58.3%
その他(具体的に)	3.5%	0.0%	2.0%	8.0%	2.5%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%
分からない	4.7%	0.0%	8.8%	0.0%	9.9%	7.1%	14.2%	4.2%	0.0%
無回答	2.4%	0.0%	0.8%	2.0%	0.0%	0.0%	3.3%	4.2%	20.8%

問 14B 個人として同和問題を解決するために、何が必要と思いますか。

(○はいくつでも)

「家庭で子どもにすべての人の人権を尊重するよう教える」が39.7%で高く、「人権問題の解決のため、個人として出来ることは努力する」、「差別にかかわることを見聞きしたときは、その場で注意する」が30%を超えている。

前回との比較では、「差別にかかわることを見聞きしたときは、その場で注意する」が3.0ポイント増加し、「そっとしておけば差別は自然になくなる」が4.7ポイント減少している。また、「どのようにしても差別はなくなる」は13%台で推移しており、差別解消に否定的な層が一定数存在することを表している。

性別年代別では、「そっとしておけば差別は自然になくなる」は男女ともに50歳代より上の世代で回答が多くなっている。「どのようにしても差別はなくなる」は、男女とも30代が一番高い割合である。

	N=726		N=1,063	
	2022	2017	2022	2017
1 家庭で子どもにすべての人の人権を尊重するよう教える	39.7%	40.8%	39.7%	40.8%
2 差別にかかわることを見聞きしたときは、その場で注意する	30.2%	27.2%	30.2%	27.2%
3 えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	16.9%	14.9%	16.9%	14.9%
4 講演会や研修会に参加し、人権意識を高める	8.5%	13.1%	8.5%	13.1%
5 人権問題の解決のため、個人として出来ることは努力する	30.7%	29.6%	30.7%	29.6%
6 そっとしておけば差別は自然になくなる	14.0%	18.7%	14.0%	18.7%
7 どのようにしても差別はなくなる	13.8%	13.5%	13.8%	13.5%
8 その他(具体的に)	2.6%	1.8%	2.6%	1.8%
9 分からない	7.7%	9.5%	7.7%	9.5%
無回答	2.5%	4.2%	2.5%	4.2%
差				

性別年代別	単位(%)	N(n)	家庭で子どもにすべての人の人権を尊重するよう教える	差別にかかわることは、その場で注意する	えせ同和行為(差別を利用する)を排除する	講演会や研修会に参加し、人権意識を高める	人権問題の解決のため、個人として出来ることは努力する	そっとしておけば差別は自然になくなる	どのようにしても差別はなくなる	その他(具体的に)	分からない	無回答
			39.7	30.2	16.9	8.5	30.7	14.0	13.8	2.6	7.7	2.5
全体		726	39.7	30.2	16.9	8.5	30.7	14.0	13.8	2.6	7.7	2.5
【男性年齢別】												
29歳以下	24		58.3	37.5	20.8	8.3	25.0	12.5	16.7	12.5	4.2	0.0
30代	20		55.0	40.0	25.0	20.0	40.0	10.0	25.0	0.0	10.0	5.0
40代	37		35.1	24.3	29.7	8.1	29.7	13.5	24.3	5.4	13.5	2.7
50代	38		39.5	21.1	34.2	2.6	28.9	18.4	10.5	2.6	10.5	0.0
60代	65		30.8	21.5	23.1	6.2	27.7	18.5	16.9	1.5	12.3	1.5
70代	71		23.9	23.9	19.7	7.0	31.0	21.1	11.3	4.2	8.5	5.6
80歳以上	21		47.6	23.8	4.8	4.8	19.0	28.6	14.3	4.8	0.0	0.0
【女性年齢別】												
29歳以下	33		66.7	39.4	15.2	12.1	36.4	6.1	18.2	0.0	0.0	0.0
30代	45		55.6	26.7	17.8	4.4	24.4	6.7	20.0	6.7	6.7	0.0
40代	49		36.7	46.9	16.3	2.0	40.8	2.0	6.1	4.1	6.1	2.0
50代	80		53.8	23.8	13.8	11.3	40.0	10.0	13.8	0.0	5.0	2.5
60代	85		42.4	31.8	9.4	17.6	35.3	11.8	15.3	0.0	8.2	0.0
70代	94		25.5	28.7	12.8	9.6	25.5	21.3	11.7	2.1	10.6	2.1
80歳以上	33		36.4	48.5	9.1	3.0	21.2	12.1	6.1	0.0	9.1	3.0

問 15 あなたの戸籍や住民票を、他の誰かが市に申請して取得したとき、そのことをあなたにお知らせする制度「事前登録型本人通知制度」があることを知っていますか。

(○は1つだけ)

全体では、「知っている」が20.4%、「知らない」が78.0%

職業別では、「公務員・教職員」54.0%が最も多いものの、十分認知されている状況ではないことが分かる。

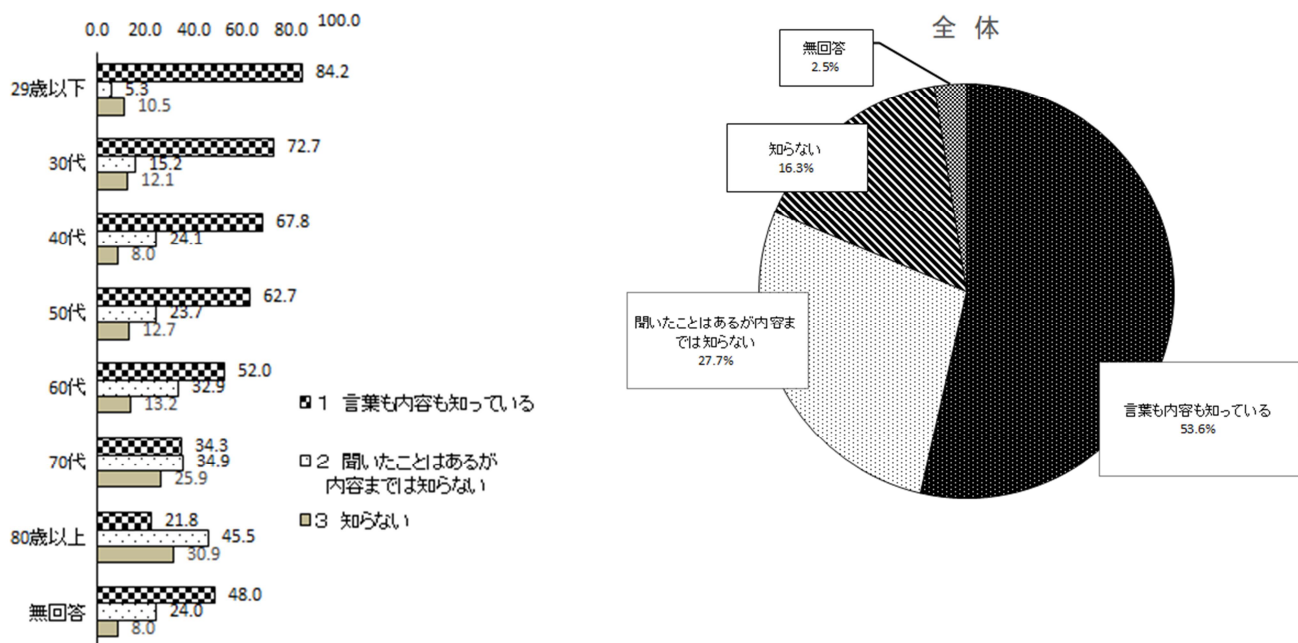
	N=85	N=14	N=251	N=50	N=81	N=14	N=183	N=24	N=24	N=726
	自営業・個人事業主	民間企業や団体の経営者・役員	民間企業や団体の社員・職員	公務員・教職員	家事に従事	学生	職業についていない人(年金生活者含む)	その他	無回答	全体
1 知っている	15.3%	35.7%	18.7%	54.0%	23.5%	7.1%	14.8%	25.0%	12.5%	20.4%
2 知らない	84.7%	64.3%	81.3%	44.0%	75.3%	92.9%	82.5%	70.8%	70.8%	78.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.2%	0.0%	2.7%	4.2%	16.7%	1.7%

問 16 あなたは、「性的少数者(LGBT など)」という言葉を知っていますか。

(○は1つだけ)

全体では、「言葉も内容も知っている」53.6%、「聞いたことはあるが内容までは知らない」27.7%、「知らない」16.3%、「無回答」2.5%である。

年代別では、29歳以下が「言葉も内容も知っている」84.2%で最も認知が高く、年代が高くなるごとに「聞いたことはあるが内容までは知らない」、「知らない」と回答する割合が高くなっている。



問 16-1 あなたは、性的少数者(LGBT など)の方がどのような生きづらさを感じていると思いますか。

(○はあなたの考えに近い上位3つまで)

全体では、「トイレや服装・制服で生活しにくい状況にある」51.8%、「家族や友人などに相談しづらい」44.5%、「法整備が不十分で婚姻や相続で不利益を受ける」36.1%である。

性別年代別にみると「分からない」「無回答」が50代以上の男性、70代以上の女性に多いことが分かる。

また、性別を「その他」と回答した人(3人)をみると、「トイレや服装・制服で生活しにくい状況にある」と回答した人は100%であった。

性別年代別		いじめや差別を受けている	トイレや服装・制服で生活しにくい状況にある	書類等で性別を記入させられる	家族や友人などに相談しづらい状況にある	法整備が不十分で婚姻や相続で不利益を受けている	行政機関などでの相談・支援体制が不十分である	その他(具体的に)	分からない	無回答
単位(%)										
全体	N(n) 726	27.4	51.8	20.8	44.5	36.1	21.3	0.6	10.9	13.4
【男性年齢別】										
29歳以下	24	50.0	45.8	8.3	54.2	45.8	4.2	4.2	12.5	4.2
30代	20	40.0	65.0	35.0	45.0	45.0	15.0	0.0	10.0	15.0
40代	37	24.3	54.1	24.3	56.8	45.9	35.1	0.0	2.7	5.4
50代	38	21.1	57.9	28.9	39.5	31.6	15.8	2.6	13.2	10.5
60代	65	27.7	49.2	12.3	50.8	36.9	24.6	0.0	10.8	10.8
70代	71	12.7	29.6	19.7	29.6	22.5	21.1	1.4	21.1	22.5
80歳以上	21	23.8	23.8	4.8	19.0	19.0	28.6	0.0	23.8	28.6
【女性年齢別】										
29歳以下	33	51.5	66.7	36.4	45.5	63.6	24.2	0.0	0.0	3.0
30代	45	35.6	71.1	28.9	68.9	53.3	15.6	0.0	4.4	6.7
40代	49	42.9	63.3	24.5	49.0	40.8	18.4	0.0	6.1	6.1
50代	80	36.3	48.8	22.5	50.0	45.0	23.8	0.0	7.5	10.0
60代	85	21.2	61.2	22.4	52.9	37.6	21.2	0.0	7.1	10.6
70代	94	14.9	43.6	14.9	33.0	19.1	18.1	0.0	17.0	25.5
80歳以上	33	15.2	45.5	21.2	24.2	30.3	24.2	3.0	21.2	12.1
【その他】										
	3	66.7	100.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

問 17 あなたは、家族から性的少数者(LGBT など)であると告白された場合、理解者になることができると思いますか。(○は1つだけ)

全体では、「そう思う」「どちらからといえばそう思う」の肯定的意識が 57.7%、「どちらからといえばそうは思わない」「そうは思わない」とする否定的意識は 10.0%である。

「分からない」が 28.9%ある。

	N=276		N=419	N=3	N=28	N=726
	男	女	その他	無回答	全体	
そう思う	12.7%	18.4%	66.7%	21.4%	16.5%	
どちらかといえばそう思う	38.0%	43.2%	33.3%	42.9%	41.2%	
どちらかといえばそうは思わない	9.4%	6.0%	0.0%	0.0%	7.0%	
そうは思わない	3.6%	2.6%	0.0%	3.6%	3.0%	
分からない	34.4%	26.3%	0.0%	17.9%	28.9%	
無回答	1.8%	3.6%	0.0%	14.3%	3.3%	

問 18 人権にかかわる宣言、法律、条例のうち、あなたが知っているのは、次のうち、どの項目ですか。(○はいくつでも)

選択肢に挙げられた7つの法令のうち、知っているとの回答が5割を超えたのは世界人権宣言のみであり、残りの法令の認知度は2割前後かそれ以下である。

	N=726		N=1,063
	2022	2017	差
世界人権宣言	65.8%	59.3%	6.6%
人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	20.4%	22.8%	-2.4%
障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)	22.7%	32.9%	-10.2%
本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ対策法)	12.0%	24.3%	-12.3%
部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)	21.5%	38.2%	-16.7%
香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	5.9%	10.4%	-4.5%
観音寺市人権擁護に関する条例	14.2%	15.8%	-1.6%
無回答	16.9%	17.9%	-0.9%

問 19 ケーブルテレビの観音寺チャンネルで人権啓発に関する番組を8月と12月に放映していますが、あなたは見たことがありますか。(○は1つだけ)

ケーブルテレビを契約していない人を含む全体の回答では、ケーブルテレビで人権啓発に関する番組を「いつも見ている」は 0.3%、「ときどき見ている」は 4.1%で、視聴率は合計でも 5%に満たない。

	N=726		N=1,063
	2022	2017	差
1 いつも見ている	0.3%	0.1%	0.2%
2 ときどき見ている	4.1%	8.6%	-4.4%
3 放映していることは知っているが、見たことはない	5.9%	8.7%	-2.8%
4 放映していることを知らなかった	25.2%	20.4%	4.8%
5 ケーブルテレビに加入していない	63.2%	59.1%	4.1%
無回答	1.2%	3.1%	-1.9%

問 20 あなたが、過去5年の間に、人権に関する学習機会として参加したり、見聞きしたりしたことがあるのはどれですか。(○はいくつでも)

「市の広報誌」が40.4%と最も高く、広報誌が人権に関する学習機会の情報源として活用されていることを表している。「テレビ・ラジオ」(30.0%)、「新聞・雑誌」(28.4%)、「パンフレット・ポスター」(28.0%)も相対的に活用されていることが分かる。一方、「インターネット」は5.5%と活用率が少ない。

N=726

パンフレットの配布、ポスターの掲示	28.0%
講演会・研修会(リモートを含む)	11.2%
自治会・PTA・老人会などの団体や職場での研修会	6.7%
市の広報紙	40.4%
新聞・雑誌	28.4%
テレビ・ラジオ	30.0%
市ホームページ・フェイスブック・ツイッターなどのインターネット	5.5%
障がい者や高齢者などの疑似体験	5.4%
人権問題に関するポスター・習字・作文などの作品展	22.6%
人権をテーマとしたイベント(ふれあい文化祭・ふくしまつりなど)	18.5%
その他(具体的に)	1.2%
分からない	15.7%
無回答	5.5%

問 21 自由意見欄

(人権・同和問題に関して、市などに対して意見や要望がありましたら、ご自由にお書きください。) ※原文のまま掲載。

記述しているのは100人である。そのうち、市の啓発活動や人権教育に対する要望、人権学習への意欲など、調査目的に合致した意見を下記にまとめた。

本当に難しい問題だと思います。いろいろな意味で当事者にならないと分からないと思います。そのような時に行政がどの位その当事者に本気でバックアップ出来るかが今後の解決につながると思います。(一つずつ少しずつでもその問題を解決していく事しかないと思います)

とてもデリケートな難しい問題だと思います。イベント(祭)を企画し色々な境遇の方に楽しく学び正しく理解してもらう事が必要で見聞きする機会を増やして下さい。

学校教育での学習がとても大切だと思います。(家庭ごとのゆがみ教育もあるし)正しい知識を持った人が増えていけば、少しずつでも差別などの問題は減っていくはずですが、自分は30代ですが、人権の学習をした記憶はありますが、同和については授業で聞いたのかもおぼえていません。同和は年配の方が気にしていて、”若い人にはよくわからない話”という風にとらえています。実際40代より下の人からそんな話を聞いた事はありません。なので自分より年が下の世代なんかよけいに知らない、分からない問題かもしれません。

同和を知ったのは、中学に入学してからでした。小学生の時はまずその環境になく、親もくわしくは知らなかった様でした。結婚し、義妹が同和の方と結婚したいと言った時、義父母、おじ、おばなどのものすごい反対があり、結局義妹は家を出て、その方と一緒にになりました。その時私達は若く、力も無く、守ってあげられない事を心の傷として胸が痛みました。数十年後、妹夫婦と交流を持ち、こんなにいい人だったのか・・・と思いました。人間は生まれではありません人柄です。

人権同和問題は、当事者の方の生身の話（実体験）が一番心に響き、意識が変化します!!今の若い子どもたちは、昔よりも同和のことを知らずに洗脳されずきていると思います。なので、小中学への講演会を定期的にもっていただくこと、次世代へプラスのバトンが渡ると期待したいです。私は昭和生まれで、祖父母、親から理由も伝えられず、とにかく「ダメだから!!」と教えこまれ、そうなんだと疑わず育ってきたので、差別はおかしい!!まちがっている!!と分かっているけど・・・いまひとつ勇気が持てなかつたり迷いが生じることがあります。そんなはずかしい大人に、我が子はなつてほしくない・・・その願いもこめて、正しい情報を今の子どもに伝えてほしいです。

現状でも市などは同和問題をはじめとする人権問題の解決のために、根拠のない差別の解消に向けて啓発や教育に努力してくれておりますが、機会ある毎に一層啓発を推進するよう希望します。一方で、新しく外国人の移住者の増加に伴う不協和音の解消には異国人の宗教・文化・思考の違いなどを互いに理解し、許容する温和な考え方が求められます。これに向けても啓発活動が求められます。

弱い立場の人たちが住みやすい町になるように、広報等で呼びかけてほしい。いろいろな立場でいろいろな考えが出てくるが、こういう市であってほしいという正当な思いはたとえ理想論といわれても、心が動く。よく知らないのに人の噂話を広げたり、他人のかけ口を言ったりしても何の解決にもならない。迷惑と感じたらどうするか。それぞれの人権の考え、住みやすい町となるために指針を提示してほしい。

このように、効果のある啓発の具体が示されていたり、啓発への願いが書かれている。しかしながら、「自然解消論」（「寝た子を起こすな」の意識）や「部落責任論」の記述など批判的な意見も多く見られた。

同和問題は社会意識として存在し続けるから繰り返されていることであるため、自然には解消しないことや、差別は差別「する側」の問題であることなど粘り強く啓発に努め、正しい理解を求めていかなければならない。